

放課後子ども教室と学校・地域が連携する地域学校協働活動の推進について ～石戸小学校放課後子ども教室を核としたネットワークのひろがりを目指して～

北本市教育委員会・北本市立石戸小学校放課後子ども教室

1 研究のねらい

石戸小学校放課後子ども教室は、コーディネーターや教育活動推進員、教育活動サポーターに支えられ活動している。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動が縮小するとともに、開室から10周年を迎えスタッフの高齢化やその確保が課題となっている。そこで、既存の地域人材を効果的に活用し、より充実した放課後子ども教室の活動を展開していくため、放課後子ども教室実行委員会を核として、学校運営協議会やPTA、学校応援団、近隣の公民館等とのつながりを重視しながら、活動の創出へと結びつけていきたい。放課後子ども教室が石戸小学校や地域の関係団体と目標を共有し、サポートし合いながら一つの方向を向いた活動を推進していく。

2 研究の概要

(1) 地域人材の発掘や充実

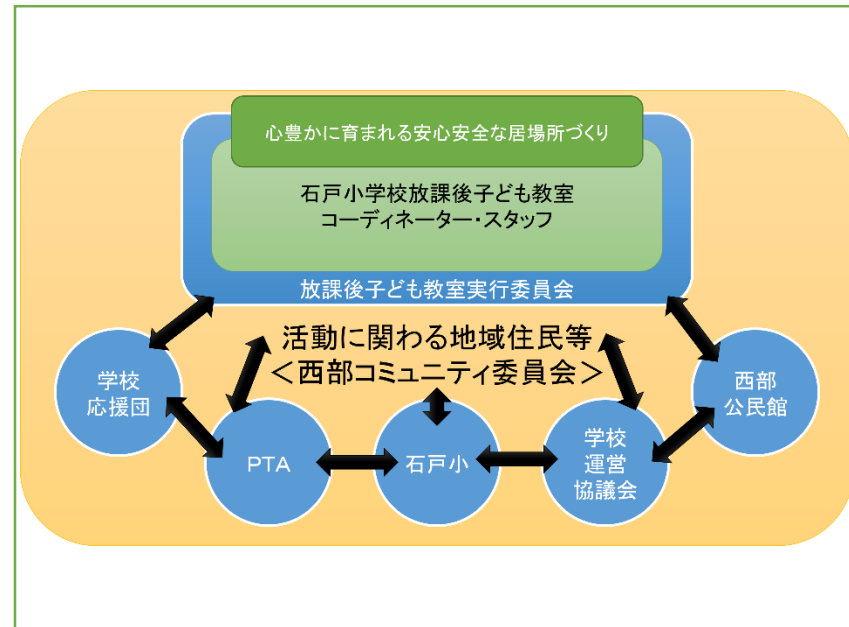
本放課後子ども教室は週4日間開室し、1日のスタッフはコーディネーター1名、教育活動推進員2名、教育活動サポーターは安全担当1名、指導担当2名の合計6名程度で実施している（現在登録スタッフは19名）。スタッフの高齢化に加え、市内他校の放課後子ども教室と兼務しているスタッフも多く、活動に必要な人数の確保が厳しい状況である。今後、継続的に活動を実施し、より充実した放課後子ども教室を展開するために、地域人材の効果的な発掘及び充実を進めている。

(2) 新たなネットワークを生かした継続的な地域学校協働活動の推進

学校応援団やPTA等の活動との連携に加え、新たなネットワークを活かした活動を創出してきた。これまでの活動も継続させながら、新たな活動を取り入れていくことで、放課後子ども教室の活動の充実を図るとともに、継続的な放課後子ども教室と学校・地域が連携する地域学校協働活動を推進している。

(3) 主な活動内容

- ① 地域人材の発掘：市のホームページにおけるスタッフ登録者の募集
- ② 新たなネットワークの活用：コーディネーターによる新たなつながりの構築
- ③ 新しい活動の取組(グランドゴルフ):新たな地域の方や異年齢の児童との交流



3 関係団体

- ・放課後子ども教室実行委員会
- ・石戸小学校
- ・学校運営協議会
- ・PTA
- ・学校応援団
- ・西部コミュニティ委員会
- ・西部公民館
- ・NPO
- ・学童

4 研究内容

(1) 「目指す子ども像」としての目標の共有(PDCAサイクル)

放課後子ども教室実行委員会やスタッフ会議において、放課後子ども教室の目的「子どもたちが地域社会の中で豊かに育まれる安全かつ安心な居場所づくり」について、児童や保護者のアンケート結果を参考に再検討し、今後の支援を具体的に明らかにする。緩やかなネットワークの必要感を継続的にもてるようにするため、目標や目的を共有し、学童をはじめとした「ネットワークとして期待したい関係団体」との新たなつながりを構築する。

(2) 放課後子ども教室実行委員会、運営委員会を通じた体制づくり

本放課後子ども教室は5月末から2月末にかけて、週4日開室している。スタッフは他校の放課後子ども教室と兼務している教育活動推進員や教育活動サポーターが多い現状である。現状の活動計画を基に、今後は市のホームページに加え、SNSでの発信を行う予定としている。また、月1回発行している参加児童保護者向けの「放課後子ども教室通信」を広報活動に活かす。その際、放課後子ども教室や地域学校協働活動の趣旨等についても明記し、地域住民の放課後子ども教室に対する関心を高め、さらなる人材の発掘につなげる。また、運営委員会を通して、学童との交流活動（共通プログラム）、民生委員の方の参画によるネットワークの創出を行う。

(3) 主な活動内容（地域の緩やかなネットワークの創出）

学びの場・体験の場・交流の場における地域人材の有効活用を進める。特に交流の場において、地域住民や異なる年齢の児童との交流活動を支援する。昨年度は西部コミュニティ委員会から、子供でも楽しめる活動として「グランドゴルフ」をご提案いただき、実施することができた。今年度は放課後子ども教室がさらに関係団体との活動と連携し、協働するなど関係団体の活動に主体的に関わり、「ふれあいの時間」等の充実を図る。



「ふれあいの時間」の様子



学童との「共通プログラム」の様子



【市HP】スタッフ募集



グランドゴルフ



西部コミュニティ会長手作り
子ども用クラブ（上）
テニスボール（下）

5 研究の成果

(1) 「目指す子ども像」への意思や方向性を統一した活動の推進

目標や目的を共有し、計画や活動を振り返ることで、PDCAサイクルを進め、放課後子ども教室・事務局・関係団体が互いにサポートし合いながら活動を推進できた。その結果、グランドゴルフを中心とする新たなネットワークの創出につながった。

(2) 活動の充実（児童・保護者アンケートから）

- ・来年も放課後に行きたいです。みんなやスタッフのおかげで、1年生からずっと放課後のふんいきはぼくにとって大切な所です。（児童）
- ・家ではなかなか進まない宿題も終えて帰宅し、本にも興味を示し、自分から借りてきて読むようになりました。（保護者）
- ・とても居心地のよい場所で6年間大変お世話になりました。（保護者）

6 課題と今後の展望

(1) 課題

- ① 放課後子ども教室から発信の継続
- ② 課題に対するアプローチの継続
- ③ 不登校児童に対応するためのネットワーク構築

(2) 今後の展望

- ① アンケート結果、人材公募を広報(H P)に公開
- ② 退職教員、各公民館へチラシ配布
- ③ スタッフのコラム掲載
- ④ スタッフ業務の見直し・削減

コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的な推進

～鳩山中を核として進める学校と地域の絆づくり～

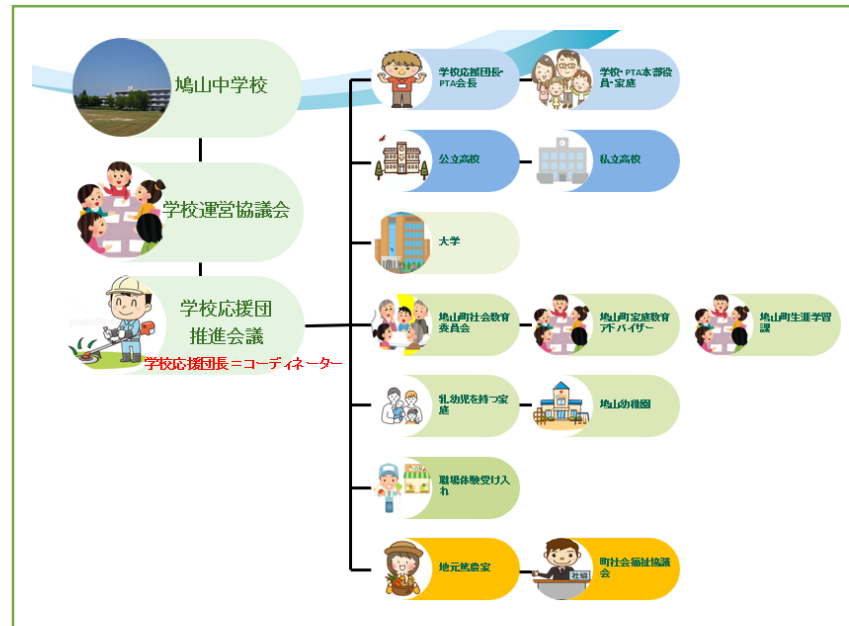
鳩山町教育委員会・鳩山町立鳩山中学校

1 研究のねらい

鳩山中学校は令和3年4月に学校運営協議会を設置し、地域と学校が協働して教育活動を行っている。鳩山中学校が、鳩山町や地域の絆づくりに貢献できる学校となることを目標に掲げ、「鳩山中が鳩山町や地域の絆を深めるための核になろう！鳩山中の元気が鳩山町や地域を元気にする！！」を合い言葉に、日々、地域の方や保護者と創意工夫意を活かし、地域とともにある学校を創っている。研究2年目となる今年度は、コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的な推進をねらいとして、学校運営協議会において熟議を重ねその提案を活かし、地域と学校が協働して取り組む教育活動を展開できるようにした。

2 活動の概要

- (1) 学校運営協議における熟議の実施と具体的な方策の提案
学校運営協議会において、学校と地域の絆づくりのための具体的方策を提案するための熟議を行う。その上で、今までの学校応援団の活動をより良く改善し、「絆づくりのために」の視点を持ち、学校・地域・保護者、関係機関が共に向上する具体的な活動を実践する。
- (2) 教育課程上のキャリア教育への位置付け
地域との連携をキャリア教育に位置付け、3年間を見通して系統的・総合的な学びを行い、生徒の成長へ繋がる実践を行う。
- (3) 主な活動内容
学校応援団推進会議…毎月1回程度実施し、学校応援団長と学校で今後の教育活動につて細かな打ち合わせを行う
学校応援団との連携…PTAボランティア、草刈隊、乳児ふれあい体験 等
キャリア教育への位置付け…職場体験、大学訪問、高校の先生による出前授業



3 関係団体

- ・学校応援団 ・PTA ・近隣の高等学校 ・東京電機大学
- ・社会教育委員会 ・教育委員会生涯学習課 ・地元農家
- ・乳幼児を持つ家庭 ・町社会福祉協議会 ・幼稚園、保育園
- ・職場体験において生徒を受け入れてくれる事業所

4 研究内容

(1) 学校運営協議会で絆づくりのための熟議を実施

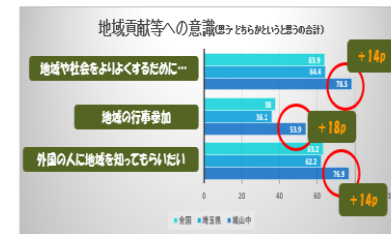
鳩山中学校の学校運営協議会の議長が学校応援団長を兼ねている。昨年度、議長から学校運営協議会の開催回数が少なく熟議のための時間確保が不十分ではないかという意見が挙がり、本年度は学校運営協議会の開催回数を2回から4回に増やした。そのことにより、熟議のための時間確保を行うことができた。熟議のテーマには、学力向上や不登校についてなどの学校課題と併せて、コロナ禍後を見据えた地域連携についても話し合うことができた。委員からは、鳩山中の活動に保護者を更に巻き込みたいという意見から、本年度は保護者向け文書を作成し依頼を行った。実際に、PTAとは別に協力頂ける保護者の増加に繋がっている。

(2) 3年間を通したキャリア教育への位置づけ

キャリア教育の一環として地域との連携を行い、1年生では職業について、2年生では大学について、3年生では卒業後の進路を見据え、高等学校について学んだ。1年生の取り組みである職場体験3daysチャレンジ事業を終えた生徒の感想からは、自らのキャリアプランへの意識の高まりを感じるとともに、職業観や地域の方への感謝の気持ちが伺えた。また、地域の産業を知る貴重な機会となっており、受け入れた事業所にとっても地域の子どもを知る機会となり、地域との絆づくりの基盤にもなっている。2年生では東京電機大学を訪問し、授業体験や学内見学を行った。また、3年生では近隣の5つの高校の先生方にお越しいただき、出前授業を行って頂いた。近隣の中学校へそれぞれの高校の魅力や良さをアピールしたいという高校側の想いと、進路選択の一つである高等学校の授業を体験することで、進路に対して真剣に向き合う態度を育成したいという学校の想いがマッチして実現している。

(3) 鳩山中草刈隊との連携

少子化による生徒数の減少により、教職員数も減り、学校関係者だけでは鳩山中学校の敷地内の環境を整備していくことが困難な状況に陥っていた。そのような現状を学校応援団推進会議において相談したところ、学校応援団長が中心となり、ボランティアを募り鳩山中学校の敷地内の環境を整備する活動が始まった。町の広報でも呼びかけを行い、本年度は18名の方にボランティアとして毎月1回の環境整備に協力いただいている。また、学校運営協議会の熟議の中で挙げた、保護者との連携について、案内文書を出したところ、生徒と一緒に参加する保護者も見られた。広大な敷地をどう整備していくかという課題解決だけでなく、地域の方々の協力のおかげで、教職員の負担軽減にも繋がっている。



令和6年度の「全国学力学習状況調査」の中の質問紙より

〔地域貢献への意識〕



〔大学訪問〕



〔草刈隊の活動〕

5 研究の成果

(1) 学びの充実と地域貢献への意識の醸成

地域との連携や、体験活動を多く取り入れることで、学校や仲間との活動に喜びと充実感を味わうことができた。また、地域貢献への意識の高まりが表れてきた。

(2) キャリアプランへの意識の高まり

学校応援団の方々との関りや体験をキャリア教育に位置付けることで、系統的・総合的な学びを実践することができ、日々の学習への意欲を高めることができた。

6 課題と今後の展望

(1) 課題

- ① 様々な取組を行うことで、教職員への負担が増していること。
- ② 草刈隊の活動など、ボランティアとして協力して下さる方々の高齢化や人材の確保。

(2) 今後の展望

教職員の負担軽減のため、コロナ禍において再開できていない活動においても、教育効果を見極めて実施していく。人材の確保においては町の広報、HPや口コミなどで鳩山中の活動を広めていく。

学校と学校運営協議会、学校応援団等との有機的連携を通じた地域学校協働活動の一体的推進

小鹿野町教育委員会 ・ 小鹿野町立両神小学校

1 研究のねらい

研究の中心となる小鹿野町立両神小学校は、現在7学級（内特別支援学級2）で、全校児童53名の小規模校である。小学校周辺の小森川や四阿屋山等を活用した自然体験学習も盛んである。校庭の一角には野鳥の森も整備され動植物を直接観察でき、学校ファームでは野菜づくりや稲作体験もできる好環境にある。学校の近くには、図書館兼公民館があり、地域の様々な行事が行われ、児童もそれらに参加している。

昨年度より学校運営協議会も発足し、地域の人材や資源に有機的な関連を持たせ、地域学校協働活動をさらに活性化させる流れとなっている。課題解決に向けて、学校運営協議会を核として学校と地域が目標を共有し、より一層連携・協働した活動を推進していくために、本テーマのもと研究に取り組むこととした。

2 活動の概要

(1) 学校運営協議会を中心とした地域との連携

小鹿野町がもつ「地域と密接である」という強みを更に活かし、学校運営協議会において、「目指す児童生徒像」や「目指す学校像」、「地域の願い」等を委員全員で共有し、地域が一体となった教育活動の推進を図る。

(2) 地域学校協働活動の一層の充実

学校運営協議会等で共有した両神小学校が目指す姿

めざす学校像【笑顔いっぱい、地域に誇れる学校～誰一人取り残さない～】

めざす児童像【よく学ぶ子 やさしい子 がんばる子】

を地域と共に実現することを目指し、両神小の強みである体験学習を軸に、学校応援団等との有機的連携を通じた地域学校協働活動を推進する。



3 関係団体

- ・ 学校応援団
- ・ 放課後子ども教室
- ・ 小鹿野高等学校
- ・ 地元企業
- ・ 民生児童委員
- ・ 西秩父商工会
- ・ 地域おこし協力隊
- ・ 明治大学
- ・ 町立図書館
- ・ おがの未来塾
- ・ 甲武信ユネスコパーク推進協議会

4 研究内容

(1) 学校運営協議会を中心とした地域との連携

本町では、町内4小学校と1中学校からなる規模の大きい学校運営協議会を設置している。本町の強みである「地域と密接な町」を活かした地域学校協働活動を推進していく為に、学校運営協議会の運営方法を見直し、以下の手順で協議を行うこととした。

①第1回の協議会で、「小鹿野町が目指す子供像・学校像」について委員の共通理解を得る。

②協議の際、テーマについての取組状況を各学校が紹介する。

③「小鹿野町が目指す姿」と「各学校の取組」を踏まえ、グループ毎にどのような地域参画ができるか熟議する。学校運営協議会に「小鹿野町が目指す姿を実現する為の地域参画」というテーマを持たせることで、委員の意識の向上と、熟議を通じた各学校の教育活動の充実を図った。



(2) 地域学校協働活動の一層の充実

学校運営協議会での熟議を経て、両神小学校では、自校の強みである「体験活動」を軸に、「めざす学校像・児童像を地域と共に実現する」ことを目標にし、地域学校協働活動の一層の充実を図った。

①日本百名山（両神山）にチャレンジ【6年生】

山岳ガイド、町役場職員、警察署員の協力の下、往復6時間を越える登山に挑戦した。地域の自然の素晴らしさ、登り切った達成感を味わわせることで、「がんばる子～夢と志をもち、めあてにむかって努力する子～」の醸成を目指した。



②薬師堂マーケットの開催【5年生】

子供たちの「薬師堂でかつてのように市を行い、地域を元気にしたい。」という思いを受け、檀家さんや明治大学生、地元企業等様々な方々の協力により実現した。当日は延べ180人の地域住民が参加した。



③図書館を使った調べる学習【4年生】

総合的な学習の時間で町立図書館職員と協力し「水の役割」について学習した。さらにカヌー体験学習、ダム見学と連動させた「調べる学習」では、図書館職員が授業を進め、担任が補佐する事で、個別最適な学びが提供できた。夏休み期間も図書館を活用し、まとめを完成させた。



④ふるさと両神の名人に学ぼう【3年生】

両神の芸能・食・文化に精通する名人を講師に招き郷土学習を実施した。花木の育て方やこんにやく作り、秩父銘仙について名人との触れ合いや体験活動を通して学ぶ中で、両神に誇りと愛着心をもつ児童の育成を目指した。



5 研究の成果

- ・学校運営協議会アンケートには、「町が目指す『夢と志』を持って色々な事が学べる学校にしていきたいです。」等の声が多く寄せられた。学校の代表でなく小鹿野町の代表として参画している委員が増えた。
- ・県学調質問紙「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心をもっていますか」の項目において、全ての学年で10ポイント以上向上する事ができた。児童にとっても地域学校協働活動が価値ある取組となっている。

6 課題と今後の展望

(1) 課題

- ・持続可能な地域学校協働活動の実践。

(2) 今後の展望

- ・統合を見据えた地域学校協働活動の実践。
(児童同士の交流・学校応援団同士の交流等)
- ・地域住民の生きがいとなる活気あふれる町作りへの支援。
(児童の愛郷心の向上、地域参画機会の増加)

学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の推進

～幅広い層の地域住民等が参画した「緩やかなネットワーク」形成を目指して～

羽生市教育委員会

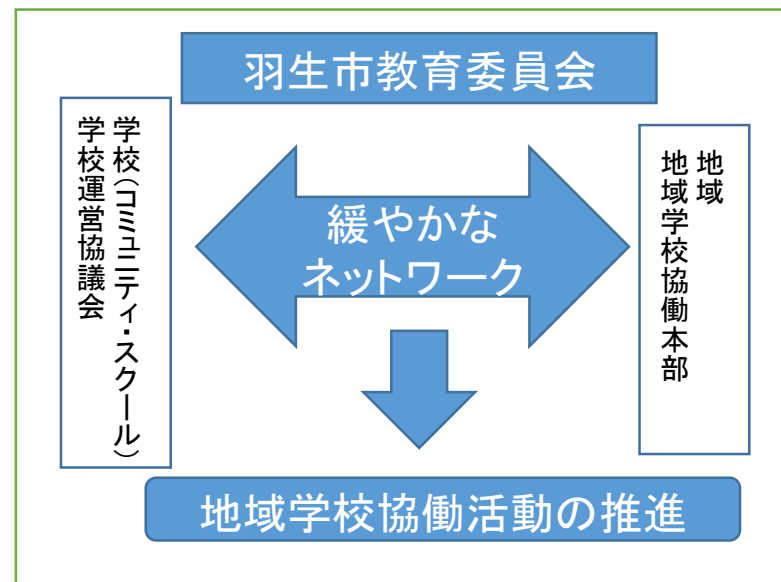
1 研究のねらい

地域学校協働活動のより一層の推進のためには、学校と地域が目標やビジョンを共有することが重要である。そして、その中心的な役割を果たすのが「学校運営協議会」である。そこで、学校運営協議会を活性化させ、幅広い地域住民等が参画できるようにすることで、教育活動や地域学校協働活動の充実・活性化につながると考えた。

本市では、この研究のキーワードである「緩やかなネットワーク」を「学校と地域がお互いに気軽に声をかける、声をかけられるつながり」と定義し、緩やかなネットワークの構築を研究の柱とした。

2 活動の概要

- (1) 学校運営協議会を核とした地域学校協働活動推進を目指す推進計画の立案
本市の学校運営協議会は、平成30年度に小学校で全面設置、令和2年度に中学校で全面設置している。これらの学校運営協議会を活性化させることで、保護者や地域住民等の願いを反映できるようにし、地域学校協働活動の推進を図る。
- (2) 学校応援団と学校の連携体制を基盤とした、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成
学校応援団やその他関係機関との連携体制の強化を図り、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成を目指す。
- (3) 学校再編成に向けた3校の交流及び公民館事業・放課後子ども教室事業の充実
令和7年4月に学校再編成を予定している「井泉小学校」「三田ヶ谷小学校」「村君小学校」で交流授業を実施し、再編成予定の地域の方と児童との関わりの場を充実できるようにする。
また、公民館事業や放課後子ども教室事業を充実することで、地域の方と児童生徒との関わりの機会を増やし、地域学校協働活動の推進を図る。



3 関係団体

- ・全小・中学校
- ・PTA
- ・スポーツ団体
- ・大学
- ・地域の方
- ・民生委員
- ・文化団体
- ・学校応援団
- ・地元企業 等

4 研究内容

(1) 学校運営協議会を核とした地域学校協働活動推進を目指す推進計画の立案

学校運営協議会を活性化させ、年に3回以上実施した。各校での課題等について、学校運営協議会推進委員に意見を求め、学校運営に反映することによって、「自分たちの学校」という意識が地域に高まった。その結果、各地域にて地域学校協働活動の推進につながった。



〔学校運営協議会の様子〕

(2) 学校応援団と学校の連携体制を基盤とした、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成

各学校において、「緩やかなネットワーク」の形成を推進し、学校と地域がお互いに気軽に声をかける、声をかけられるつながりを多く育むことができた。羽生市立川俣小学校では、学校応援団をはじめ、自治会、川俣げんき会、公民館、青少年相談員、利根川の魅力をはぐくむ会など、より多くの幅広い地域住民等が気軽に学校行事に参画するなど、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働することができている。川俣公民館主催の宿泊行事「ムジナもん学寮」においても、地域の方の協力体制のもと、ほぼ全ての川俣小学児童が参加し、キャンプファイヤーやレクリエーションなどで地域の方々と一緒に楽しい時間を過ごすことができた。



〔川俣公民館ムジナもん学寮の様子〕

(3) 学校再編成に向けた3校の交流及び公民館事業・放課後子ども教室事業の充実

再編成予定の3校（井泉小学校、三田ヶ谷小学校、村君小学校）で様々な交流事業を実施する中で、各小学校の地域に関係した事業を実施した。井泉小学校の学区にある「ホタルの里」の見学では、井泉小学校区の方に村君小学校や三田ヶ谷小学校の児童を案内していただいたり、育てているホタルについて解説していただいたりした。一方、井泉小学校児童が、村君小学校や三田ヶ谷小学校の地域の田に行き、各地域の方々と稲刈りの体験を通して、交流を行うこともできた。

公民館事業として、地域の方に講師をお願いし「学力アップ羽生塾」を実施したり、「村君地区英語村 友・遊プラザ」において、児童生徒と地域の方が一緒に英会話を行ったりするなど、交流を深めることができた。

放課後子ども教室事業では、消防職員による「救急救命講習」や更生保護女性会による「グランドゴルフ体験」、郷土芸能団体による「和太鼓教室」など、地域の方の専門性を生かした活動に取り組むことができた。



〔井泉地区ホタルの里見学の様子〕

5 研究の成果

(1) 学校運営協議会の定着

学校運営協議会を発足して、小学校で6年目、中学校で4年目を迎えた。学校運営協議会の運営が定着し、推進委員を務める地域の方も、気軽に意見を交換しやすい雰囲気をつくり出すことができています。また、学校側から推進委員に学校運営について、積極的に意見を求め、「協働して学校をよりよくしていこう」という意識が高まった。

(2) 学校と地域の連携拡大

多くの交流事業をとおり、学校と地域の連携が深まるとともに、地域住民が幅広く、教育活動に参画することができた。緩やかなネットワークの推進を図り、学校と地域がお互いに気軽に声をかけ合えるようになった。

6 課題と今後の展望

(1) 課題

平日の日中に活動できる地域の方の多くが御高齢であり、保護者世代の継続的な人材確保が難しい現状がある。

地域によって地域学校協働活動への参画意識の違いがあるため、今後、持続可能な緩やかなネットワークの形成をさらに推進する必要がある。

(2) 今後の展望

庁内の各種会議等において、地域学校協働活動の状況について積極的に情報を発信し、さらなる推進を図るとともに、人材確保に努めていく。

引き続き教育委員会と学校が連携を図りながら、学校運営協議会を核とした地域学校協働活動を推進していく。

学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の推進

～幅広い層の地域住民等が参画した「緩やかなネットワーク」形成を目指して～

羽生市教育委員会

1 研究のねらい

地域学校協働活動のより一層の推進のためには、学校と地域が目標やビジョンを共有することが重要である。そして、その中心的な役割を果たすのが「学校運営協議会」である。そこで、学校運営協議会を活性化させ、幅広い地域住民等が参画できるようにすることで、教育活動や地域学校協働活動の充実・活性化につながると考えた。

本市では、この研究のキーワードである「緩やかなネットワーク」を「学校と地域がお互いに気軽に声をかける、声をかけられるつながり」と定義し、緩やかネットワークの構築を研究の柱とした。

2 活動の概要

(1) 学校運営協議会を核とした地域学校協働活動推進を目指す推進計画の立案

本市の学校運営協議会は、平成30年度に小学校で全面設置、令和2年度に中学校で全面設置している。これらの学校運営協議会を活性化させることで、保護者や地域住民等の願いを反映できるようにし、地域学校協働活動の推進を図る。

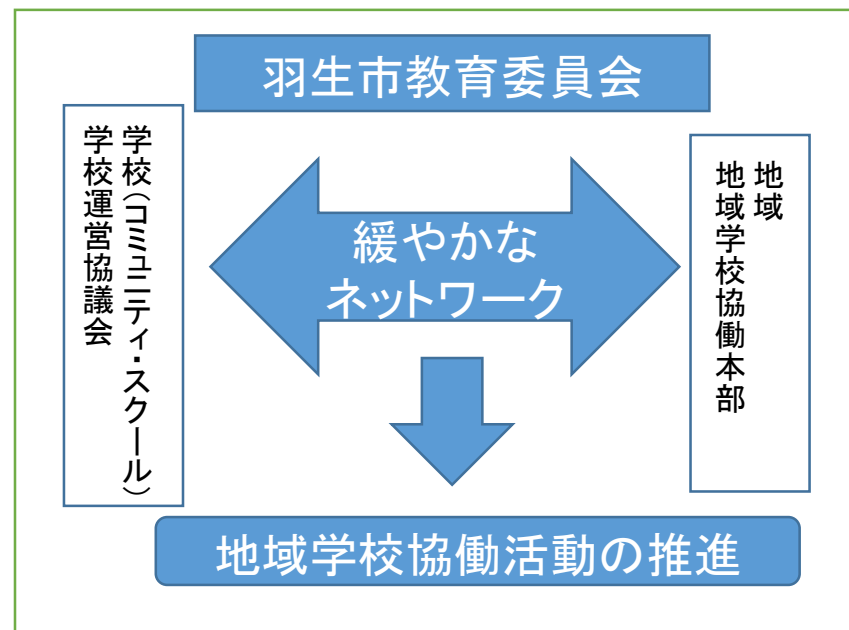
(2) 学校応援団と学校の連携体制を基盤とした、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成

学校応援団やその他関係機関との連携体制の強化を図り、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成を目指す。

(3) 学校再編成に向けた3校の交流及び公民館事業・放課後子ども教室事業の充実

令和7年4月に学校再編成を予定している「井泉小学校」「三田ヶ谷小学校」「村君小学校」で交流授業を実施し、再編成予定の地域の方と児童との関わりを充実できるようにする。

また、公民館事業や放課後子ども教室事業を充実することで、地域の方と児童生徒との関わりを機会を増やし、地域学校協働活動の推進を図る。



3 関係団体

- ・全小・中学校
- ・PTA
- ・スポーツ団体
- ・大学
- ・地域の方
- ・民生委員
- ・文化団体
- ・学校応援団
- ・地元企業 等

4 研究内容

(1) 学校運営協議会を核とした地域学校協働活動推進を目指す推進計画の立案

学校運営協議会を活性化させ、年に3回以上実施した。各校での課題等について、学校運営協議会推進委員に意見を求め、学校運営に反映することによって、「自分たちの学校」という意識が地域に高まった。その結果、各地域にて地域学校協働活動の推進につながった。



〔学校運営協議会の様子〕

(2) 学校応援団と学校の連携体制を基盤とした、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成

各学校において、「緩やかなネットワーク」の形成を推進し、学校と地域がお互いに気軽に声をかける、声をかけられるつながりを多く育むことができた。羽生市立川俣小学校では、学校応援団をはじめ、自治会、川俣げんき会、公民館、青少年相談員、利根川の魅力をはぐくむ会など、より多くの幅広い地域住民等が気軽に学校行事に参画するなど、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働することができている。川俣公民館主催の宿泊行事「ムジナもん学寮」においても、地域の方の協力体制のもと、ほぼ全ての川俣小学児童が参加し、キャンプファイヤーやレクリエーションなどで地域の方々と一緒に楽しい時間を過ごすことができた。



〔川俣公民館ムジナもん学寮の様子〕

(3) 学校再編成に向けた3校の交流及び公民館事業・放課後子ども教室事業の充実

再編成予定の3校（井泉小学校、三田ヶ谷小学校、村君小学校）で様々な交流事業を実施する中で、各小学校の地域に関係した事業を実施した。井泉小学校の学区にある「ホタルの里」の見学では、井泉小学校区の方に村君小学校や三田ヶ谷小学校の児童を案内していただいたり、育てているホタルについて解説していただいたりした。一方、井泉小学校児童が、村君小学校や三田ヶ谷小学校の地域の田に行き、各地域の方々と稲刈りの体験を通して、交流を行うこともできた。

公民館事業として、地域の方に講師をお願いし「学力アップ羽生塾」を実施したり、「村君地区英語村 友・遊プラザ」において、児童生徒と地域の方が一緒に英会話をしたりするなど、交流を深めることができた。

放課後子ども教室事業では、消防職員による「救急救命講習」や更生保護女性会による「グランドゴルフ体験」、郷土芸能団体による「和太鼓教室」など、地域の方の専門性を生かした活動に取り組むことができた。



〔井泉地区ホタルの里見学の様子〕

5 研究の成果

(1) 学校運営協議会の定着

学校運営協議会を発足して、小学校で6年目、中学校で4年目を迎えた。学校運営協議会の運営が定着し、推進委員を務める地域の方も、気軽に意見を交換しやすい雰囲気をつくり出すことができています。また、学校側から推進委員に学校運営について、積極的に意見を求め、「協働して学校をよりよくしていこう」という意識が高まった。

(2) 学校と地域の連携拡大

多くの交流事業をとおして、学校と地域の連携が深まるとともに、地域住民が幅広く、教育活動に参画することができた。緩やかなネットワークの推進を図り、学校と地域がお互いに気軽に声をかけ合えるようになった。

6 課題と今後の展望

(1) 課題

平日の日中に活動できる地域の方の多くが御高齢であり、保護者世代の継続的な人材確保が難しい現状がある。

地域によって地域学校協働活動への参画意識の違いがあるため、今後、持続可能な緩やかなネットワークの形成をさらに推進する必要がある。

(2) 今後の展望

庁内の各種会議等において、地域学校協働活動の状況について積極的に情報を発信し、さらなる推進を図るとともに、人材確保に努めていく。引き続き教育委員会と学校が連携を図りながら、学校運営協議会を核とした地域学校協働活動を推進していく。